

次期大綱への抽出事項（生涯学習分野）

注力すべき分野

「生涯にわたる学びの機会」の創出と、「地域文化・自然」を活かした教育の推進

取り組むべき方向性

1. 関係人口の創出

「生涯学習」という言葉のとおり、能勢町のすべての方を対象に「知る」機会、学ぶ機会を提供することは勿論のこと、町外の方にも「能勢町を知る・学ぶ」機会を提供することにより、幅広い範囲の人に能勢町の地域文化と自然の歴史や経過、現状に関心を高めてもらう。

この取組は、生涯学習・生涯教育を永続していくにあたり、近い将来として懸念されている地域文化や自然教育の人手不足・担い手不足を解消するために必要不可欠と考え、関係人口の創出に主眼を置いて取り組む。

◇主な事例

文化財の活用	現 状	郷土史研究会と共に実施している学習講座は、参加者も多く（令和6年度：57人（うち14人町外）、令和7年度：76人（うち20人町外）、町外からの参加者も少なくない）。
	課題等	今後は、能勢町に多数ある文化財を観光資源として活用する方向性も視野に入れて取り組む。
社会体育施設の必要性	現 状	現在、名月グラウンドの土、日の使用は概ね町外中学生野球チームが使用。複数チームが毎月抽選で予約。
	課題等	施設利用者は、町外利用者の方が割合が高く、今後はさらにその割合が上昇することが見込まれる。 町内唯一の体育施設を維持し、町内の方が当該施設で体力向上、健康増進を目的にスポーツに取り組んでいくためにも、町外利用者は必要不可欠。
伝統行事の推進	現 状	各区で実施されている伝統行事（亥の子、獅子舞など）や町全大会のスポーツ大会などは近年参加者が減少し、継続維持に苦慮している。
	課題等	伝統行事について学習講座などを通じて町内外にPRし、シビックプライドの醸成とともに、ルールの緩和等により町外からの参加を募り、新たな体制をとりつつも伝統を絶やさないよう担い手を創出する。

2. 新生涯学習センターの整備

町内外を問わず、「能勢町を知る」機会の場、集いの場、憩いの場であることを位置付けて整備を進める。

その他の当課所管業務においても、今後ますます関係人口は切り離すことはできない重要な人材資源となる。

地方創生2.0基本構想(令和7年6月13日閣議決定)より抜粋

④関係人口の量的拡大・質的向上

人口が減少しても多様な人材同士が影響し合い地域の活力を高める姿を目指すため、関係人口の量的拡大・質的向上(関わりの深化)を図る。具体的には、関係人口を可視化する仕組みを創設する。また、地域との関わり方等に応じて関係人口の類型化を行い、それぞれの類型に応じた施策を展開し、これらを一体的に地方公共団体や経済界等へ情報提供を行うとともに、関係人口に対する行政サービスの在り方等、制度面についても検討を行い、必要な措置を講じていく。

各地方公共団体は、関係人口と自らの地域との関わり方や、関係人口や地域に対する具体的な支援の在り方などを検討し、地域住民や関係人口と共に、新たな地方創生を進める。